



遠賀中間医師会

2024年9月3日発行

第22号

在宅総合支援センターだより

在宅医療・介護連携推進事業



遠賀中間地域在宅医療・介護連携推進事業のホームページを開設いたしました

【ホームページ】

遠賀中間地域1市4町では、医療や介護が必要になっても住み慣れた環境で自分らしく安心して生活することができるよう、医療機関や介護サービス事業所等の関係団体が連携して、医療と介護サービスが切れ目なく一体的に提供できる体制づくりを進めています。事業を円滑に推進するため、中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町及び遠賀町の行政及び医療・介護関係団体等で構成する遠賀中間地域在宅医療介護連携推進協議会を設置しています。この度、遠賀中間地域在宅医療介護連携推進協議会では遠賀中間地域在宅医療・介護連携推進事業のホームページを開設いたしました。

ホームページの名称は“つなぐ在宅ネットおんがなかま”です。



【在宅医療・介護資源マップ】

ホームページ“つなぐ在宅ネットおんがなかま”の新規開設に伴い、遠賀中間地域在宅医療・介護資源マップをリニューアルいたしました。資源マップは、遠賀中間地域の医療機関・介護サービス事業所等の情報閲覧が可能です。所在地や機能などの条件を設定して絞り込み検索をすることができます。検索の際の複数エリア選択や検索結果一覧の同一地図上への表示、相談窓口の追加等のバージョンアップを行っています。



<掲載情報について>

遠賀中間地域の医療機関・介護サービス事業所で、情報公開にご協力いただける事業所の情報を掲載しています。情報に変更が生じている場合があり、利用の際は事前に直接事業所にお問い合わせください。

令和6年5月11日(土) 出前講座を開催しました

日時 令和6年5月11日(土) 13:30~15:00

場所 静光園ふれあいカフェ(養護老人ホーム遠賀静光園)

講師 遠賀中間医師会おかがき病院 院長 末廣 剛敏 氏

遠賀町で行われている認知症カフェ「静光園ふれあいカフェ」において出前講座を実施しました。

在宅医療や介護についての理解を深め、在宅療養において必要となるサービスを選択できることが重要になります。

今回は、「人生の彩り 今を生きる」と題して、認知症の予防、高齢者の健康づくりといった内容から、尊厳死やリビングウィルについて説明していただきました。

講義後のアンケートでは、「母が常々在宅での療養を希望していて在宅で死を迎えることができ穏やかに過ごせたので、私もそのように過ごしたいと思っている。」「主人と密度の濃い残る人生を過ごしたいと思いました。」などのご感想をいただいています。



遠賀中間医師会おんが病院にがんケアセンターを新設いたしました。

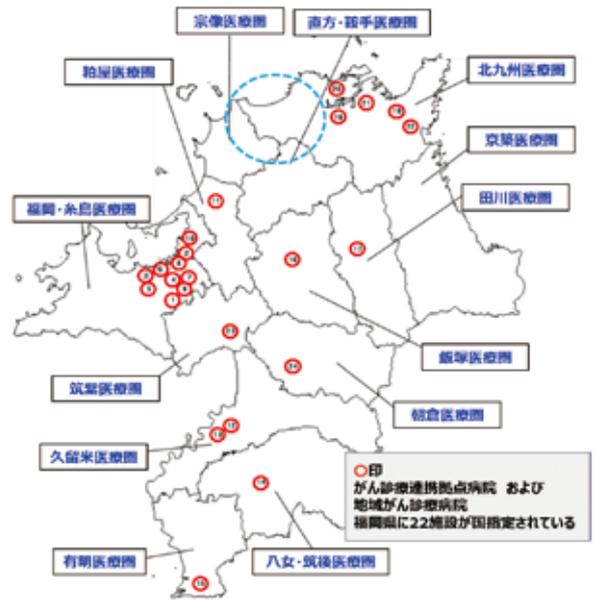
福岡県における国指定のがん診療連携拠点病院等

1980年代以降、がんの罹患数は男女とも増加し続けています。また、がんの死亡数は、1960年代以降、男女とも増加し続けており、1981年から死因の第1位で最近では総死亡の約3割を占めています。そして、高齢者の数がピークになる2040年頃までは、高齢者に多く発症する「がん」の患者さんの数は、さらに増え続けると予想されています。

国のがん医療は、がん対策推進基本計画に基づいて指定されているがん診療連携拠点病院等（全国463施設）を中心に進められていますが、遠賀中間地区にはありません（右図）。そのため、高齢化が進むと予想されるこの地域では、高齢がん患者さんの治療やケア・サポートの体制の整備がますます重要になってきます。

そこで、、、、

おんが病院に〈がんケアセンター〉を開設しました！



どんな方が対象になるのですか？

おんが病院では、がんの治療として、年間70~80例の手術や多くの薬物療法（抗がん剤治療）を行っています。また同時に、がんの症状を緩和する取り組みも積極的に進めています。

おんが病院がんケアセンターでは、これらをさらに充実させるとともに、以下の様な方の診療を広めていきます。

★当地域にお住まいの方で、専門病院でがんの治療中または治療後の通院が難しい方

- ・ 頻回の通院が必要ながん薬物療法中の患者さん
- ・ がん治療の影響で体調管理が難しくなった患者さん
- ・ がん手術後で再発や体調の定期的な経過観察が必要な患者さん など



“がんケアセンター”って何をするとところ？

現在、がん医療の中では、多くの“ケア”という言葉が使われています。例えば、心と体の痛みを和らげる緩和ケア、治療の合併症や後遺症などを予防・治療するサポーターティブケア、副作用から起こる脱毛といった外見の変化による苦痛を軽くするアピランスケアなどです。

“がんケア”とは、積極的ながん治療に加えて、この様ながんにまつわるあらゆることをトータルに考えて、患者さんやご家族をケアしていこう、サポートしていこうという活動です。



遠賀中間地区で“がんケア”の充実が大切ですね？

がん治療に対する考え方は、医学の進歩に伴って「長い入院治療が必要」というものから、「できるだけ日常に近い生活の中で治療や療養を続けていく」というものに変わりつつあります。遠賀中間地区でも、在宅医療や在宅介護が必要ながん患者さんや介護施設のがん患者さんが増加してきています。例えば、医療用麻薬を使った痛みや

つらさのコントロール、点滴も含めた栄養の維持改善、がんによる胸水や腹水の軽減なども在宅や施設での管理が可能になっています。

がんケアセンターでは、おんが病院の訪問診療や在宅総合支援センターの訪問看護ステーション・ケアプランセンターと協力して、在宅や施設のがん患者さんのケアやサポートをしていきます。おんが病院と在宅総合支援センターの多職種で“がんケアチーム”を結成し、それぞれの専門知識や経験を活かして、お互いに協力しあいながら、おんが病院内や遠賀中間地区での“がんケア”のレベルアップを目指していきます。



🔍 がんについて相談したい時はどうしたらいいのですか？

がんになると、患者さんやご家族はいろいろな不安、疑問や悩みが出てくると思います。そんな時に、相談に乗ったり正しい情報を提供することも、がんケアセンターの大切な役割です。おんが病院では、“がんケアチームによる相談窓口”を設けていますので、がん治療について不安や疑問に思うことだけでなく、仕事との両立や治療費のことなど何でもご相談ください。

また、遠賀中間地区でのがんに関する講演会なども頻回に開催して、がん医療に関する最新の正しい情報提供をしていきます。



がんケアセンターからの情報提供 ＜「がん」は、早期発見・早期治療が大切です！＞

わが国では、現在、男性の1.5人に1人、女性の2人に1人が生涯に1回は何らかのがんになると言われており、2023年には推計約396,000人ががんで亡くなっています。男性では肺が最も多く、次いで大腸、胃、膵臓、肝臓の順、女性では大腸が最も多く、次いで肺、膵臓、乳房、胃の順で亡くなっています（*1）。

がん患者さんの5年実測生存率（*2）はがんの種類によって大きく異なりますが、がんのステージによっても異なります。表に示すように、例えば日本に多い胃がん、大腸がん、乳がんなどでは、最も早い時期に見つかったがんの5年実測生存率は、それぞれ82%、83%、95%ですが、最も進行して見つかった場合は、それが6%、17%、39%に低下します。つまり、**がんは早期発見が重要**なのです。早期発見によりがんが治る可能性が高くなりますし、何より治療が軽くなることにも繋がります（例えば、早期の胃がんや大腸がんは内視鏡的な治療ですむ場合が多いですが、進行すると手術が必要になります）。

	早期 ← → 進行				計
	ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ	ステージⅣ	
胃がん	82	60	37	6	62
大腸がん	83	76	69	17	64
乳がん（女性）	95	91	77	39	88
					(%)

がん情報サービス（がんの統計2024） https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/statistics/2024_jp.html より

*1：国立がん研究センターがん情報サービス https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl/index.html

*2：関係なく全ての死亡を計算に含めた生存率（がん以外の死因による死亡も含む）

そのためには、**症状がなくても、定期的に検診を受ける**ことが最も大切です。日本ではがんの検診受診率が低く、福岡県はその中でも検診率が低いとされています。また、がん検診で、「精密検査が必要」と言われても放置する人も多くいます。

「精密検査が必要」が、すなわち「がんがある」と言うことではありません。怖がらないで、早く精密検査を受けてください。

★詳細は、おんが病院健診センターへお尋ねください。

国が推奨するがん検診の一覧

種類	検査項目（全て問診を含む）	受診間隔	対象年齢
胃がん	胃部X線検査 または 胃内視鏡検査 のいずれかを選択	2年に1回 (いずれか一方)	50歳以上
大腸がん	便潜血検査（免疫法）	1年に1回	40歳以上
肺がん	胸部X線検査 および 喀痰細胞診（*1）	1年に1回	40歳以上
乳がん	マンモグラフィ（*2）	1年に1回	40歳以上
子宮頸がん	視診・子宮頸部の細胞診および内診	2年に1回	20歳以上

*1: 50歳以上で、喫煙指数（1日本数×年数）が600以上の人、*2: 視診・細胞診の単独実施は推奨しない
出典：厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」
「職域におけるがん検診に関するマニュアル」

住民公開講座開催のお知らせ

詳細は、在宅総合支援センターまでお問い合わせください。

◎住民公開講座 <どなたでも無料で参加できます。>

がん患者さんの在宅療養について学べる公開講座です。

テーマ:がん患者さんの在宅療養を考える ～自分らしく生きるを支える～

日時:令和6年10月19日(土) 13:30~16:00

場所:水巻町中央公民館 大ホール 遠賀郡水巻町頃末北1丁目1-2

内容:基調講演、講演、パネルディスカッション



メディカルケアステーション(MCS)

医療・介護従事者のためのコミュニケーション・情報共有ツール

MCSは医療介護専用の完全非公開型SNSで、多職種連携のためのコミュニケーション、情報共有ツールです。必要な情報を関係者間で共有することができます。

遠賀中間地域連携コミュニティ

遠賀中間地域の医療機関・介護サービス事業所等を対象として、MCSの自由グループを作成しています。コミュニティに参加してつながりに登録すると患者グループへの招待や参加がスムーズに行えます。また、参加者(多職種)間の交流の場としています。詳細は、在宅総合支援センターまでお問い合わせください。



遠賀中間地域在宅医療・介護資源マップ

遠賀中間地域在宅医療・介護資源マップをホームページ“つなぐ在宅ネットおんがなかま”に掲載しています。

遠賀中間地域の医療機関や介護サービス事業所を、カテゴリー(種別)やエリア、名称等から検索して閲覧することができます。在宅総合支援センターのホームページから、どなたでもアクセスできます。ぜひお気軽にご利用ください。



在宅医療に関する医療機器整備(無料貸出)

当センターでは、在宅医療に使用する医療機器、研修用シミュレータを医療機関及びサービス事業所に無料貸し出しを行っています。借用の手続きや貸出物品などの詳細は在宅総合支援センターのホームページをご覧ください。

<医療機器貸出物品>

- ポータブル吸引器
- ポータブル吸入・吸引両用器
- ネブライザー
- 点滴スタンド
- 自然落下式輸液ポンプ
- PCAポンプ
- カフティポンプ
- カフ圧計
- 血液ガス分析器(携帯用)
- もの忘れ相談プログラムなど



PCAポンプ



血液ガス分析器
(ガスタットナビ)

在宅医療に関する相談窓口について

在宅総合支援センターには在宅医療に関する相談窓口があります。遠賀中間地域1市4町の地域包括支援センター等と連携してご対応させていただきます。

専門のスタッフがおりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

在宅医療相談窓口

受付時間 月～金曜日
9時～16時

電話 093-281-3100

FAX 093-281-3105



発行 遠賀中間医師会 在宅総合支援センター

〒811-4342 遠賀郡遠賀町大字尾崎1725番地2

TEL 093-281-3100 FAX 093-281-3105

URL : <http://www.onnaka-med.or.jp/zaitaku/>